

おばあちゃんと狸の置物

「行ってきます。」

朝、声をかけて玄関を出ると、小さな狸の置物が牛乳箱の上でこちらを見えています。愛嬌のある顔をした狸は、おばあちゃんのお気に入りです。

我が家では、週に3日、牛乳を配達してもらっています。配達がある日は、いつもおばあちゃんが牛乳を冷蔵庫へしまってくれています。でも、その役割を私が担当していたことがありました。

それは今年の夏の出来事でした。

「あれ？牛乳は？」

お昼頃、牛乳を飲もうと思って、私が冷蔵庫を開けてみると牛乳がありません。すると、「あっ！」という声が聞こえて、おばあちゃんがあわてて玄関の方へ行きました。

私も一緒に行ってみると、一昨日配達された牛乳が残されたままになっていました。日当たりがいい場所だということもあり、もう飲めるものではなくなっていました。

「おばあちゃんうっかりしていたわ。ごめんな。」

がっかりした表情でおばあちゃんが言いました。

「いいよ、誰だって忘れることあるし。それに、おばあちゃんだけが牛乳を入れなければならないわけじゃないし。」

「最近、なんか物忘れがひどくなってあかんなあ……」

その日はそれで終わりましたが、このようなことが、その後も何回かありました。やがて、おばあちゃんは牛乳箱に全く近づかなくなっていました。その後は、牛乳の担当は私がすることになり、牛乳の取り忘れはなくなりました。

それから何日かが過ぎ、牛乳屋さんが集金に来られた日の夜、おばあちゃんが家族みんなに言いました。

「また、明日から牛乳は、私が入れるようにするわ。それでな、これからは、配達された牛乳が箱の中にあるときは、この狸さんがふたの上にいるから、みんなも覚えといてな。」

おばあちゃんの表情が少しはずんで見えました。

実は、集金のときに、おばあちゃんが牛乳の取り忘れのことを話したら、牛乳屋さんがこんなことを言われたということです。

「そしたらおばあちゃん。僕が牛乳を配達に来た日は、中に牛乳が入っているという印に、必ずこの狸の置物をふたの上置いておくわ。そしたら、牛乳を取り忘れてないか分かりやすいやろ。」

牛乳屋さんとの話を聞いた私は、担当を代わる前にすべきことがあったのではないかと思います。

それから季節が進み、今はずいぶん寒い時期になりましたが、冷蔵庫には、牛乳屋さんのおかげもあって、おばあちゃんが取り入れてくれている牛乳がいつもあります。

今朝も玄関を出ると、愛嬌のある顔の狸がこちらを見えています。狸の笑顔はおばあちゃんの笑顔です。

「おばあちゃん、いつもありがとう。行ってきます！」